



慶應義塾大学ビジネス・スクール

銀座・大人の学校

資生堂の意思決定課題

5

資生堂 [付属資料 1～3 参照] 会長の福原義春氏は、非営利組織「文化パステル」 [付属資料 4 参照] が開催している「銀座・大人の学校」に資金援助をすべきかどうか、またそうした場合、資生堂にとってどのような意味があるかについて、思いをめぐらしていた。資生堂は「文化パステル」が企画している1998年10月開催予定の「チャリティー・スコーレ・コンサート」には特別協賛として70万円の資金協力を行う予定だが、1998年7月現在の時点で「銀座・大人の学校」に関しては協力していない。資生堂は活発な社会貢献活動で知られるだけでなく、近年では「プレ・シルバー」²セグメントへの関心を強めていた。

10

資生堂と「銀座」

15

企業人としての福原氏は、資生堂会長や日本化粧品工業連合会会長を務める一方、1990年以来務めている(社)企業メセナ協議会理事長や日本交響楽振興財団会長の肩書きで知られるように、文化芸術の支援に関心が強い人物である³。また個人的にも、彼の出身地は東京都中央区銀座であり、現在も銀座通連^{どおり}合会の会長を務めるなど、銀座との縁も深い。

資生堂は、創始者で薬剤師でもあった福原有信が我が国初の洋風調剤薬局である資生堂薬局を1872年に開業して以来、銀座と共に歩んできた。当時の銀座は、政府が西欧文明の窓口として開拓した新開地であった。銀座大通りには松、桜、楓の並木が植樹され、我が国で初めてガス街路灯が設置された。銀座の文化は、資生堂の商品と重なって認知され、資生堂が

20

1 資生堂に関わる記述は、「化粧品のブランド史」(1998年、水尾順一、中央公論社)および資生堂広報リーフレットを参考にした。

25

2 本論では、従来用いられている「老人」「高齢者」「シルバー」といった用語が一般的に65才程度以上で社会的な活動からリタイアした者を指してきたことを踏まえ、社会的立場や意識・行動の点で彼らとは大きく異なる、40代後半から50代の人々を「プレ・シルバー」層として捉えることとする。

3 福原氏に関わる記述は、Nifty-Serveの日外アソシエーツ人物データベースを参考にした。彼の著書には、「企業は文化のパトロンとなり得るか」(1990年、求竜堂)がある。

本ケースは、慶應義塾大学大学院経営管理研究科における特別実習の成果としてまとめられたものであり、経営管理に関する適切あるいは不適切な処理を例示することを意図するものではない。本ケースの作成は、慶應義塾大学大学院経営管理研究科 和田充夫教授の指導のもとに、博士課程 碓 朋子が行った。

30

(1998年7月作成)